世界最大級の地下河川で まちを豊かにする ストック効果の好循環

防災・減災も大切な社会資本整備の一つです。首都圏外郭放水路は、中川・綾瀬川流域の浸水被害を軽減するための治水施設です。春日部市はその能力をPRしながら企業の誘致、福祉の向上、まちの活性化まで、次々と好循環を生み出しています。

埼玉県春日部市の石川良三市長。背後は建設中の新・春日部市立病院。

水害を大きく減らした首都圏外郭放水路

埼玉県の東部に位置する春日部市は、かつて水害に見舞われることが多い地域でした。周辺には江戸川や利根川、荒川が流れており、市域には大落古利根川（おおおとしふるとねがわ）や中川をはじめ多数の河川が流れています。石川良三春日部市長は「この流域は海抜が低く、お皿の底のように水がたまりやすい地形です。戦後に水田地帯が宅地開発されたこともあり、台風や大雨が発生すると、広い地域で冠水が生じていました」と語ります。

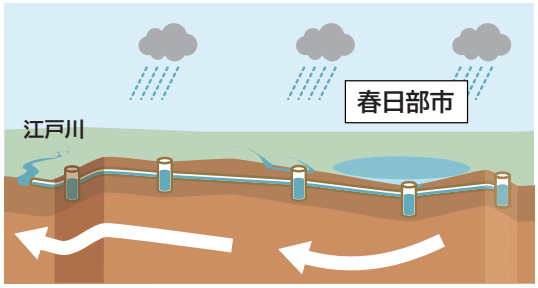
この問題を解決するために整備されたのが、「首都圏外郭放水路」。平成18年に完成したこの放水路は、春日部市を東西に走る国道16号の地下約50ｍに建設されました。増水した河川の水を取り込み、地下の放水路を通じて江戸川に排出します。この放水路の完成によって浸水被害は大きく軽減しました。

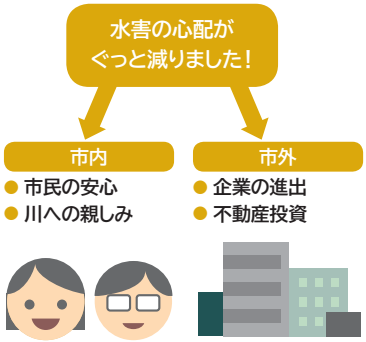
「水害に強いまち」に企業が進出

首都圏外郭放水路が完成すると、民間の集合住宅の建設が増加しました。現在、市内にある大規模マンションのほとんどは、放水路の完成後に竣工したものだといいます。整備前と比べると着工件数は約2・8倍に増加。春日部市では東洋一のマンモス団地と呼ばれた武里団地がありますが、近年は核家族化などにより住民が約1万人減少しています。しかし、民間の大型マンションの建設などにより、市の人口減少傾向は改善し、横ばい状態を維持しています。

もう一つの大きな効果は、企業の進出です。春日部市では国道4号バイパスと国道16号が交差していて、首都圏と各方面とを結ぶ物流の拠点として非常に適した立地なのですが、水害の発生は企業にとって大きなリスクとなるため、進出を阻んできました。しかし、放水路完成後は、春日部市でも「水害に強いまち」を積極的に広報し、現在までに28件の企業が進出しました。平成25年には大型商業施設も開業し、地域住民の利便性も向上。28社の総従業員数は約3200名に及び、地元での雇用創出、市の財政にも波及効果があります。企業の進出は、現在も続いています。

お皿の底のようにくぼんだ地形に春日部市があり、首都圏外郭放水路はその地下を走る。写真は地下を通るトンネルの内部。





積極的な情報発信によって、住民の増加、産業の活性化が起きると、そこから新しい活動や需要も生まれ、好循環につながっていく。

水害の減少を起爆剤にさらに暮らしやすい環境をつくる

「首都圏外郭放水路の完成によって春日部市のポテンシャルが大いに高まりました。大切なのは行政自らがそのポテンシャルをもっと高めていくことです」と石川市長。

まず、企業の進出が加速していることを踏まえ、国道4号バイパスと国道16号が交差する庄和インターチェンジと外環道を結ぶ「東埼玉道路」建設を、市が後押ししています。

また、主要駅である東武鉄道春日部駅の「連続立体交差事業」も促進しています。現在の春日部駅は東西を連絡する通路がなく、鉄道と駅が周辺地域を分断しているのが実情です。放水路完成後に高まった駅周辺のにぎわいをさらに広げていくには、東西の交通を円滑にする必要があります。

市の事業としては、「新・春日部市立病院」の建設が進められています。建設の現場は、駅からも近い市役所に隣接する場所です。このエリアは従来、道路冠水が頻発していましたが、安全性が高まったことで、新しい市立病院の用地としての活用が可能になったのです。新病院は「がん診療連携拠点病院」に指定されるなど、春日部市のみならず周辺地域にとっても重要な医療拠点になる予定です。

「地域をよくするためのインフラ整備は、国や県にお願いするだけでなく、共に考え、力を合わせていく必要があります。建設に必要な用地の取得でも、市自らが積極的に行動すべきだと考えています」と石川市長は熱く語りました。

江戸川河川敷での大凧あげ祭りの様子。石川市長は、「放水路ができたことで、市民の川に対する見方は、怖い存在から親しみある憩いの場に変わりました」と表情を和ませる。企業も参加するようになり、規模の大きな凧が増えて祭りはいっそう盛り上がりを見せている。

「コラボレーション」がストック効果を高める

水害対策が強化され、その事実を積極的に伝えてきたことで新しいコラボレーションが次々に生まれています。その一つが「古利根（ふるとね）公園橋と水辺のデッキ」の整備です。古利根公園橋は、市の特産品である麦わら帽子がモチーフの橋と公園を一体化した施設。夏には「夕涼みフェスタ」を開催し、スペースを民間事業者に商業利用してもらいながら、イベントを盛り上げています。

「春日部市には元々素晴らしい魅力がたくさんあります。首都圏外郭放水路で防災能力が高まったことを知ってもらうことで、川に親しむイベントが盛り上がったのです」。石川市長は、行政がインフラ整備の効果を積極的に外部に伝えながら、好循環を引き起こすことが大切であると強調します。

「そのためには伝え方も大切です。情報をただ出せばいいのではなく、分かりやすく伝える努力が必要。きちんと伝わったか、市民や企業の反応に耳を傾けることも大切です。今後も市民や民間企業、県や国とコラボレーションをしながら、もっと魅力的なまちにしていきたい」と市長の熱意ある言葉があふれました。春日部市はこれからもまちと社会資本の相乗効果を生み出していくでしょう。

今後の発展にも期待 株式会社玉俊工業所

大手スーパー・百貨店などで展示や陳列に使う什器を販売している株式会社玉俊工業所は、平成19年12月に、東京都江東区新木場から春日部市下柳に物流センターを移転しました。計画では、都内を通過せずに主要な高速道路へアクセスできる候補地が複数ありましたが、首都圏外郭放水路の情報なども踏まえ、この地に決めました。

春日部物流センター所長の肥田正雄さんは、「移転した時は何もない場所でしたが、弊社の後に続くように数多くの企業が進出しました。一昨年には目の前に大型の商業施設も完成し、従業員の利便性も向上。今後もこのエリアが発展していくと確信しています」と話してくれました。

株式会社玉俊工業所の肥田正雄さん。放水路に関する情報は地元の方から聞いたという。市の熱心なPRの成果と言えるだろう。